



東壁獣面人身像

支像の可能性が高くなりました。

飛鳥資料館では、新聞やテレビなどの報道機関を通じて広く一般に知られることになったキトラ古墳の壁画を、少しでも多くの方々に見ていただければとの思いから、この度、速報展示というかたちでの公開となりました。 (飛鳥資料館)

## 速報展示「キトラ古墳壁画」

飛鳥資料館では、昨年の秋に藤原宮跡から出土した木簡の速報展(実物展示)をおこないました。それに続いて、今回2002年2月26日から3月24日までの期間で、昨年12月のキトラ古墳予備調査の際に撮影した画像の写真パネル展をおこないました。

この調査は文化庁が、キトラ古墳壁画保存のために実施したもので、文化財研究所が協力しています。

キトラ古墳については、2001年3月までに明日香村が学術調査をおこない、壁画の保存状態が大変悪いこと、崩落の危険性が極めて高いことが確認されていました。今回の予備調査は、こうした成果を受け、壁画の崩落を防止し保存処理を施すために、実際に石槨の内部へ人が入ることができるかどうかのデータを得ようとしたものです。したがって、撮影も南壁と盗掘坑のできるだけ正確な大きさを測ることに主な狙いを定めています。

しかし、挿入したカメラの位置や角度がこれまでの調査とは微妙に違っていたこともあり、いくつかの新しい画像を得ることができました。例えば、南壁の朱雀、西壁の白虎、東壁下方の人物像らしい像などは、より正面に近い角度から撮影ができ、全体の形がよくわかるようになりました。特に、人物像らしい像は、これによって顔が獣面とわかり、十二